

僕の故郷長崎市^{ろく}粕町^{かすまち}に日本銀行の長崎支店がある。

子供の頃、二歳になったばかりの弟が行方不明になって騒ぎになった時、弟は日銀長崎支店の正面のどぶ溝の一カ所で水の中をクルクルと廻り続ける丸い大きなお煎餅を眺めて居る所を発見され、保護された。この事が後の我が家のお金の苦労に繋がることになったのだろうか。

実際お金はクルクルとは回らない。誠に勝手な奴だ。

僕は一度だつて自分の手元に留まって欲しいなんて願ったことは無い。ただ、必要な時に必要なだけ僕の所を通ってくれたらそれで満足なのである。なのに思い通りにいかぬどころか、本来『架空の存在』である『お金』に翻弄される訳である。いや、若い頃は良い関係だったのだ。元々宵越しの銭は持たない型の僕としては、自分の歌が大ヒットして得られたお金にまずびっくりした。

貯めたりすると罰が当たると思い「精霊流し」の印税で父の借財を全て返済してから長崎に墓まで建てた。「雨やどり」の印税で無人島を買った。思えばこの辺りから僕は思い上がったのだろうか。

「関白宣言」の印税をはたいて中国に渡り、日本国を背負ってドキュメンタリー映画を作ったせいで二八歳の時に個人で二八億円の借金をし



絵・江口修平

お金の話

さだまさし

た。この映画は一〇〇年後には必ず宝物になるのは解って居るからそれはまあ良いのだが、正味二八億円の借金は僕の人生には痛手だった。どうやらあの辺りからお金の風下に回ったに違いないのだ。

これを返済するのに懸命に歌って歌って歌って、小説を書いて書いて書いて三〇年もの長い時間をかけてようやく返済し終え、これで安心だと思ったら『東日本大震災』が起きてしまった。のんびり「私腹」など肥やしている場合ではなくなつた訳である。

それで僕は仲間と計って『風に立つライオン基金』を立ち上げた。災害や事故の度にコンサートホールに募金箱を置くのでは無く、ガラス張りの募金箱を常設することにしたのだ。

創設から一年の間に一億円近い募金を得たお陰でその後に起きた熊本震災、台風災害、鳥取震災の応援も出来たし、ケニアの子どものために奮闘する日本人医師やスーダンのへき地医療に従事する日本人医師、またミンダナオ島で二〇年に亘って孤児院を営む日本人男性、大槌町で津波の物故者の墓碑銘を本にする活動をしている僧侶などの応援もしている。

遣い道に困るようなお金持ちには是非とも我々の基金の応援をお願いしたい。勿論個人的に僕にくれたらそりゃもう、尚更嬉しいじゃないか。

さだ・まさし●シンガー・ソングライター、小説家。長崎市出身。1973年、グレープとしてデビュー。76年ソロ活動を開始。ソロ通算4200回(2017年2月末現在)を超えるコンサートのかたわら43作のオリジナルアルバムをリリース。小説家としても10作の作品を発表。NHK総合テレビ「今夜も生でさだまさし」のパーソナリティとしても人気を博している。

